

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和元年6月号

花植木ニュース



千葉県植木銘木100選、まもなく100本!

生産振興課 園芸振興室
主査 吉沢 雅弘

千葉県は、出荷額全国1位を誇る植木生産県です。県では、植木産地発展の基礎を築いた伝統的な樹芸技術を保存・継承し、今後の植木振興に役立てるため、平成14年度から「千葉県植木伝統樹芸士」及び「千葉県植木銘木100選」を認定しています。植木銘木の認定は、まもなく100本になろうとしています。

1 千葉県の植木について

千葉県の植木は、イヌマキとマツを中心にツゲやキャラなど伝統ある優れた造形技術によって作られる庭園用樹木や、公共から民間まで利用される緑化用樹木、ホームユース用鉢植木と、様々な用途に応じた生産が行われています。

平成28年の植木の出荷額は65億円で、9年連続全国第1位の産地となっています。

2 植木伝統樹芸技術について

東金市の篤農家が、大雪の時にマキの枝が折れ曲がったことにヒントを得て、枝にノミを入れて裂き、自由に枝を曲げる「割り(くじき)」の技術を開発しました。このような先人が編み出した技術は、本県独特の芸術的な植木生産に活用されています。

千葉県では、植木産地発展の基礎を築いた伝統的な樹芸技術を保存・継承し、今後の植木生産に役立てるため、平成14年度から「千葉県植木伝統樹芸士」「千葉県植木銘木100選」を認定しており、平成30年度までに、植木伝統樹芸士61名、植木銘木96本を認定したところです。

認定要件や、これまでに認定された樹芸士・銘木については、県のホームページを御覧ください。

URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/ueki/>

3 千葉県植木伝統樹芸士について

本県の伝統的な植木樹芸技術及びその知識を有する県内植木生産者を、植木生産組合等からの推薦を受けて認定しています。

一般消費者に千葉県が誇る植木樹芸技術を知ってもらい、植木に対する興味や理解を深めてもらうため、千葉県花き振興地域協議会では、国産花きイノベーション推進事業を活用して、昨年は東金市の道の駅で植木伝統樹芸士の実演・展示を行いました。



植木伝統樹芸士実演会の様子(平成30年9月)

4 千葉県植木銘木100選について

本県の植木生産者の持つ伝統技術で造形され、芸術的品位風格を備えている等、一定の基準を満たす植木について、所有者又は植木生産組合からの申請を受けて認定しています。

日本産造形樹の独特な形状は海外でも人気で、輸出された造形樹は「マクロ盆栽」の名で親しまれています。これまでに認定した96本のうち、既に20本が海外(主に中国)に輸出されており、植木の販売拡大に役立っています。



植木銘木100選に認定されたイヌマキ

5 募集について

今年度も「千葉県植木伝統樹芸士」「千葉県植木銘木100選」を募集しています。推薦書又は申請書は、7月31日までに各市町村へ提出ください。詳細については以下までお問合せください。

【お問合せ先】

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室
電話: 043-223-2871

頑張る産地



皮ごと食べられるぶどうと出会って “ぶどう屋”になりました

香取農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 香取 茂男

香取市のぶどう栽培は、昭和36年に畑作からの転換を目的に始まり、直売を中心とした県内有数の産地です。その中で、味と消費者ニーズにこだわったぶどう栽培に取り組む若き後継者・香取孝禎さんを紹介しします。

1 地域の概要

香取市は水郷の早場米産地として有名ですが、実は県内有数のぶどう産地です。

なかでも香取さんの所属する香取市栗源ぶどう組合は、昭和36年から現在まで全面積をハウスで栽培しています。組合員は9名で7haを栽培しています。

2 美味しいぶどうと出会って就農を決意

就農のきっかけは、33歳の時に「瀬戸ジャイアンツ」というぶどうとの出会いでした。それまでになかった「皮ごと食べられること、美味しいこと」に心を打たれ、千葉県立水郷小見川少年自然の家を退職して、直売を中心としたぶどう栽培に取り組みました。



シャインマスカットの下で孝禎さんと奥さん

当初は親から35aのブドウハウスを借りて就農しました。最初は摘粒がうまくできずにお客様から、「房を持ち上げたら、ぶどうがバラバラになっていたよ」等のクレームに肩を落としたとのこと。今では研究熱心な性格から、様々な問題を解決して、地域の中で一目置かれる農業者になっています。

3 ハウスを更新しながら規模拡大

組合員が総出で手作りした土屋式ハウス(従来から使っていたコンクリート支柱の単棟ハウス)は、暖房や換気効率が悪く着色ムラが多いことから、平成27年からパイプハウスに更新を進めており、今では新設のハウスも含め、140aの面積に拡大しています。

就農7年目を迎えた平成31年に経営移譲され、両親と孝禎さん、妻の4人で管理しています。

4 シャインマスカットに魅せられて

酸味がなく、甘い「シャインマスカット」との出会いは「瀬戸ジャイアンツ」以上の感激でした。今では「シャインマスカット」と「巨峰」を40aずつ、「デラウェア」20a、残りの40aに有望と思われる品種を数多く試作しています。メインの「シャインマスカット」は1房500~600gで1.2t/10aの収穫量です。

5 お客様の様々な要望に応じて

味にこだわり、お客様に喜ばれるぶどう作りを目指していますが、美味しいだけでは売れないようです。

大きい房が好みのお客様もいれば、小さい房を好むお客様もいます。それぞれの好みに合わせたぶどう作りにより、100%直売できる経営を目指しています。



左からシャインマスカット、巨峰、瀬戸ジャイアンツ

野菜ニュース



3倍体スイカを中心とした産地育成 ～ J A 富里市西瓜部の取組 ～

印旛農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 石垣 賢治

J A 富里市では、平成 24 年から 3 倍体スイカの生産量拡大と栽培管理技術の向上に取り組んできました。通常のスイカよりも販売単価の高い 3 倍体スイカを生産振興を図り、生産意欲を高めることで、50 万ケースの出荷量確保を目指します。

1 産地の課題

富里市のスイカは5月から7月が主な出荷時期で、全国でも有数のスイカ産地として知られていますが、近年は担い手不足や、他品目への転換により作付面積が減少傾向にあります。

産地維持のためには、50 万ケース（6,500 t）の出荷量確保を命題とすることが、J A 富里市や富里市、農業事務所など関係機関で共通の認識となっています。

スイカは管理に手間がかかるため、一戸当たりの栽培面積を増加させるには、作型を分散する必要があります。しかし、7月は気温が高いため、通常の品種では品質の維持が難しいことが技術的な課題でした。

そこで、平成 24 年から高温期にも生育が安定し品質が維持できる 3 倍体品種の導入が検討されてきました。

2 3倍体スイカの特徴

通常のスイカは種ができますが、3倍体スイカは種ができないため、食べやすい「種なしスイカ」です。

富里市で導入した黒皮の3倍体品種は、特に高温条件下でも糖度が低下しにくいという特徴があります。



写真1 収穫時の黒皮3倍体スイカ

3 今までの取組

黒皮の3倍体品種の導入で、7月の高温時の出荷量の増加を目指しましたが、2倍体スイカの花粉が必要なことや、草勢のコントロールが難しいこと、異形株が発生しやすいことに加え、当初は収量も慣行品種より少なかったことから、導入のメリットが十分に発揮できませんでした。

そこで、現地試験や優良農家の聞き取り調査、先進産地である銚子の出荷組合との技術交流会等を行い、安定生産に向けた栽培管理技術の向上に取り組むとともに、未栽培者への情報提供により生産者の掘り起こしを図りました。



写真2 先進産地との技術交流会

4 現状と展望について

平成 25 年に、出荷量約 5,200 ケースで始まった 3 倍体スイカ生産は、平成 30 年には約 31,000 ケースまで拡大しており、現在は「プレミアムブラック」として販売し、差別化を図っています。3 倍体スイカは、種なしをアピールするために店頭ではカットされた状態で販売されることが多いため、2 L 以上の大玉かつ空洞がないことが強く求められています。

今後は、大玉で空洞がない果実を安定的に生産する技術を確立し、3 倍体スイカ生産を安定させることで、スイカ生産に対する生産者の生産意欲を高め、産地全体のスイカ出荷量確保につなげていくことを目指します。



施設野菜に発生するコナジラミ類に有効な防除薬剤

千葉県農林総合研究センター
病理昆虫研究室 室長 福田 寛

県内で発生しているコナジラミ類2種の成虫に対して効果の高い薬剤はディアナSC、トランスフォームフロアブルであり、タバココナジラミに対してはコルト顆粒水和剤、ファインセーブフロアブル、アニキ乳剤も有効でした。幼虫に対しては、クリアザールフロアブルの効果が比較的安定していました。

1 はじめに

コナジラミ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、難防除害虫として知られています。そこで、県内の果菜類栽培ハウスで採集したコナジラミ類2種に対する主要薬剤の感受性を検定しました。

2 結果

平成28年に、県内施設園芸地帯でコナジラミ類を採集したところ、多くの施設で優占種はオンシツコナジラミでした。タバココナジラミは一部の施設でのみ発生しており、そのバイオタイプは従来から発生しているQ1でした（他県ではQ2という新しいバイオタイプが発生しています）。しかし、平成30年夏はタバココナジラミが多発生し、本種が媒介するトマト黄化葉巻病も多発しました。

薬剤に対する感受性検定の結果を表に示しました。両種成虫に対して高い殺虫効果を示した薬剤はディアナSC、トランスフォームフロアブルで、この2薬剤は全ての個体群で死虫率が100%となりました。ベストガード水溶剤も多くの個体群に安定した殺虫効果を示しましたが、同系統の薬剤でコナジラミ類の主要防除薬剤であるスタークル/アルバリン顆粒水溶剤はタバココナジラミに対する効果がやや不安定でした。タバココナジラミに対してはコルト顆粒水和剤、アニキ乳剤も高い効果を示し、

ベネビアODの効果も比較的安定していました。また、ファインセーブフロアブルはタバココナジラミに対しては高い殺虫効果を示すものの、オンシツコナジラミに対しては効果が認められませんでした。

殺幼虫剤では、クリアザールフロアブルの効果が両種に比較的安定していました。

以上のように、種により薬剤の感受性が異なる薬剤もありますので、ハウス内でどちらが発生しているかを見極めることも薬剤選択の際の重要なポイントです。

以上、試験結果の概略を紹介しましたが、コナジラミ類の防除は薬剤のみに頼らず、虫をハウスに「入れない」、ハウスから「出さない」、ハウス内で「増やさない」の基本を守り、防虫ネットの展張や栽培終了時の蒸し込み等を行ってください。また、ハウス内でコナジラミ類が高密度にならないよう早めの薬剤防除を行い、同一薬剤の連用を避け、気門封鎖型殺虫剤等を組み合わせたローテーション散布を心がけてください。なお、農薬を使用する際は登録内容をよく御確認ください。

今回、紙面の関係で一部試験結果を省略しました。詳細は、千葉県HPの「しごと・産業・観光」サイトで「試験研究成果普及情報(平成30年度)」を検索いただくと見ることができます。

表 県内で採集したコナジラミ類に対する各種薬剤の防除効果

商品名	IRACコード サブグループ	希釈 倍率	オンシツコナジラミ				タバココナジラミ	
			海匠 2 ¹⁾	山武 3	長生 4	君津 4	山武 1	長生 1
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	4A	2,000	86.2 ²⁾	93.8	93.2	93.6	81.3	19.1
ベストガード水溶剤	4A	1,000	97.2	96.1	92.3	98.1	90.1	
ハチハチ乳剤	21A	1,000	53.9	54.7	30.3	70.6	59.6	
サンマイトフロアブル	21A	1,000	9.9	27.9	7.5	5.5	74.3	
ディアナSC	5	2,500	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
アニキ乳剤	6	1,000	53.0	71.1	88.5	77.2	92.6	
ベネビアOD	28	2,000	34.8	37.2	3.9	17.1	84.6	90.6
コルト顆粒水和剤	9B	4,000	62.2	47.1	19.0	52.1	100.0	100.0
トランスフォームフロアブル	4C	1,000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
ファインセーブフロアブル		1,000	26.2	23.4	17.8	32.0	100.0	
クリアザールフロアブル(幼虫)	23	2,000	99.7	96.2	88.7	96.7	78.7	

注1) 各地域の供試個体群数。

注2) 数値は補正死虫率=(無処理区生存虫率-処理区生存虫率)/無処理区生存虫率×100)。空欄は欠調。

供試地域の個体群の平均値で表示。

※IRACコード：殺虫剤の作用機構分類に基づき薬剤をグループ化した指標

平成30年度における農地中間管理事業の 実績及び5年後の見直しについて

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部（千葉県農地中間管理機構）

昨年度の農地中間管理事業は皆様の御理解及び御協力により貸し借りの単年度面積が一作年度同様 1,000ha を超えました。本年度、国では本事業の見直しを予定しており、事務の簡素化等が図られます。当協会においても皆様が御活用できますよう、更なる事業推進を努めていきます。

1 平成30年度の実績について

5年目を迎えた平成30年度の農地中間管理事業の実績は、全県で1,534haを借り受け、1,175haの貸し付けが年度内に行われました。前年度の実績と比較すると、借り受けが約5割増（平成29年度1,060ha）となり、貸し付けがほぼ同様（平成29年度1,128ha）となりました。さらに、貸付面積のうち587haが新たに担い手への貸し付けとなりました。特徴としては約7割が地域でまとまった形の集積であり、集積のタイプとしては5地域が営農組織が核、21地域がほ場整備地区、13地域が地域のリーダーが核となりました。また、簡易な整備を行う際に、耕作者に対して助成する「農地耕作条件改善事業」については、8地区（計48ha）実施し、1地区（3ha）完了しました。推進面では、県内10の農業事務所に駐在する職員を10名から13名に増員しました。本年度も引き続き同様の体制となりますので、お気軽に御相談ください。

2 農地中間管理事業の5年後の見直しについて

※本件については改正された法律の施行後適用となる内容も含まれます。

(1) 機構集積協力金の変更

（平成31年4月1日適用）

昨年度までは地域内の農地を一定の割合で貸し付けた地域（地域タイプ）に交付される地域集積協力金、農地を貸し付けた個人（個人タイプ）に交付される経営転換協力金及び耕作者集積協力金がありました。今後、地域タイプは重点化（実質化された人・農地プランの作成、単価の一律化・引き上げ、集約化タイプの追加、中山間地域への

要件緩和等）が図られ、個人タイプは経営転換協力金が5年間で段階的に縮減（単価の減額）・廃止となり、耕作者集積協力金が廃止となりました。

(2) 借受・貸付手続きの一括化

従来農地中間管理機構では、出し手からの農地の借り受けは市町村（農業委員会）、受け手への貸し付けは県の手続きを経て行っていました。今後、手続きは期間の短縮を図るため、農地の借り受けと同時に貸し付けを一括して行うことのできる仕組みが設けられる予定です。

(3) 利用状況報告の廃止

農地中間管理機構から農地を借り受けている受け手は毎年利用状況の報告をすることが義務付けられておりました。本件については農業委員会が行う利用状況調査と重複するため、農地中間管理機構から求めがあった場合のみ報告となる予定です（本年度については昨年度と同様に報告が必要となります）。

(4) 集積・集約化を支援する体制の一本化

農地集積の手法については相対、農地利用集積円滑化事業、農地中間管理事業と複数あり手法の選択が煩雑でした。今後、農地利用集積円滑化事業は農地中間管理事業に統合一本化をされる予定です。一本化に伴い農地中間管理事業の実施区域が農地利用集積円滑化事業の実施区域に拡大されます。

お問合せ先

(1) 公益社団法人千葉県園芸協会 農地部

TEL : 043 (223) 3011

E-mail : nouchibu@chiba-engei.or.jp

(2) 農地が所在する市町村の農政担当課

(3) 最寄りの農業事務所企画振興課

産地間の交流促進 全国ビワ研究協議会 開催結果

公益社団法人千葉県園芸協会

「千葉から発信！ 未来につなげるビワづくり」をテーマに、全国ビワ研究協議会が、4月9日（火）10日（水）に南房総市で開催されました。

技術情報の研究討議や、産地間交流により生産者の連帯感と意欲向上を図ることを目的に、全国果樹研究連合会（全果連）などの主催により、今回で22回目の開催となります。

1日目は、房州びわ生産の概要や、道の駅とみうら枇杷倶楽部の取組、房州枇杷研究会やびわ再生協議会の活動など、安房地域の取組について報告。さらに、長崎県の取組や香川県のビワキジラミ対策などについて報告がありました。2日目は、市内のびわ園、県暖地園芸研究所、枇杷倶楽部の視察を行いました。

また、テレビ番組でのPRや献上枇杷100回目の記念誌作成など、房州枇杷の販売促進・文化継承に貢献された、南房総市の柴山春雄氏に対し、全果連会長賞が贈られました。

県内外の約150名が参加し、びわ産地や関係者の情報交換・交流促進が図られ、今後のびわ産地の維持・発展につながる事が期待されます。



現地視察（高所作業車の実演）

県産「カラー」のPR 東京タワーで特別展示

千葉県花き園芸組合連合会

県産花きのPRとして、生産量日本一を誇る君津市の「カラー」の特別展示が、4月5日（金）～7日（日）、東京タワーで開催されました。

君津市のカラーは、「恋人のカラー」としてPRを行っており、今回の特別展示は、君津市、JAきみつ、小糸花卉園芸組合の合同で実施したもので、東京タワー2階のフットタウンで、東京タワーをイメージした約1,500本のカラーでアレンジしたものです。

オープニングでは、君津市の石井市長から、君津のきれいな地下水で育ったカラーを、是非、大切な人に贈ってほしいとPR。併せて君津市の特産品も販売されました。

今後も、「恋人のカラー」のPRや販売環境の向上、担い手の確保などに取り組み、小糸花卉園芸組合の活動がさらに活発になるよう、期待されています。



東京タワーをイメージした「カラー」

千葉県野菜品種審査会の開催

千葉県農林水産部生産振興課

千葉県野菜品種審査会は、県内の野菜産地に適した優良品種の選定と、野菜種子の素質改善を通じ、県産野菜の品質向上と野菜産地の振興を図ることを目的として昭和27年から開催しています。

○第67回 千葉県野菜品種審査会の開催計画

令和元年度は、キャベツ、にんじん、レタス、ねぎの4品目を対象に実施します。

審査会の開催場所、審査時期等は以下のとおりです。

第67回 千葉県野菜品種審査会の開催計画

品目	作型	ほ種期	審査時期	ほ場地	担当機関
キャベツ	秋冬どり	8月上旬	11月上中旬	旭市	農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室
にんじん	秋冬どり	8月上旬	12月上旬	香取市	農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室
レタス	年内どり	9月上中旬	12月中下旬	館山市	農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室
ねぎ	秋冬どり	5月中旬	1月下旬～2月上旬	横芝光町	山武農業事務所